

群馬県立 松井田高等学校

テーマ

▶ 既習範囲

目的

▶ 校内テストの実施

学習面ではもちろん、生徒や家庭とのコミュニケーションツールとしてもスタディサプリを活用中の群馬県立松井田高等学校。進路指導主事の田村先生と学級担任の遠藤先生に、それぞれの目線からの「スタディサプリ活用術」について、お話を伺いました。

ICT教材について

課題やテストを紙からWebへ切り替えることに抵抗感はなかったですね。最初は到達度テストをメインに行っていました。スタディサプリが導入されて、コロナ禍による休校もあり、一気に活用が進んだ印象です。また、使ってみたら非常に便利だったというのが大きいと思います。(田村先生)

コロナ禍による休校中は、「生徒に毎日検温結果を送ってもらいましょう」「課題はなるべくスタディサプリで出しましょう」といったことを学校全体で決めて取り組んでいました。担任としては、スタディサプリのメッセージ機能は生徒とのコミュニケーションツールとして重宝しています。(遠藤先生)

スタディサプリ導入以前

生徒間の学力差が大きいため、授業や課題はどうしても中下位層のレベルに合わせた内容になりがちでした。



進路指導主事 田村先生 (左側)
 英語科 遠藤先生 (右側)

担任業務の面でも、連絡事項は朝のホームルームで伝えるようにしていましたが、絶対的に時間が足りないと感じていました。(遠藤先生)

この取り組みを始めたきっかけ

休校中の連絡手段として使ったことが、浸透した一番のきっかけです。また、担当営業の方に勧めていただき、夏休み明けの校内テストもスタディサプリに置き換えました。これまで外部のテストを利用していました。出題内容が生徒の実態に合っていないと感じられない点もあったのが理由です。スタディサプリは簡単にテストを実施できるため、継続しやすさにつながっています。(田村先生)

実際の取り組み

国数英の先生方にスタディサプリより校内テストの範囲を選定いただき、その範囲から夏休み中の課題を配信します。夏休み明けにそれぞれ3コマ(計3コマ)ずつスタディサプリの確認テストを五〜六講義ほど配信し校内テストを行います。(田村先生)

生徒の変化感

授業も動画も、一方的な講義形式のものは生徒の集中力が続かないのが今も悩みどころですが、到達度テストを確認すると基礎学力がついてきていることは実感できます。過去の比較を見ることができるので、卒業までの成長が一目でわかり、ありがたいですね。授業ではカバーできない一般入試への対策も、生徒それぞれが自主的に取り組んでいることが履歴から感じ取れます。(田村先生)

メッセージ機能のおかげで空いた時間に生徒へ連絡できるようになり、個人的に質問や相談をくれる生徒も増えました。講義動画は教員としても勉強になりました。説明の仕方やポイントのおさえ方など予備校的な講義スタイルは教材研究にも活かせると感じています。教員側もより良い授業づくりに役立てて、生徒へ還元していきたいですね。(遠藤先生)

実際の取り組み

取り組みの流れ

- ①国数英の先生に実力テスト範囲の選定をいただく
- ②夏休み期間中に事前学習用として同範囲の課題配信
- ③夏休み明けの3コマで確認テストを利用した実力テストを実施

夏休み期間に事前課題の配信

事前課題の中から校内テストを実施



校内テストを確認テストに置き換えるメリット

- ✓ 問題作成の不要
- ✓ 採点業務の工数削減



【学校情報】

1938年に創立され、かつては女子校であった。1948年に群馬県に移管、男女共学化する。「人にやさしいハートフル松高」を掲げており、地域住民との交流やボランティア活動に重点を置き活動している。